

報道関係各位

2015年7月31日

日本能率協会グループ
広報委員会

第5回「ビジネスパーソン1000人調査」仕事を楽しむ意識

社員が仕事に楽しく取り組むことは企業の成長のポイント

仕事を楽しむことはパフォーマンスを高め、さらにチームへ伝わっていく

企業の人材育成やものづくり革新、調査・システム開発などの経営支援サービスを提供する日本能率協会グループは、このたび、全国のビジネスパーソン1000人に対して意識調査を行いました。この調査は働く人びとに焦点を当て、その時々々の旬の話題をデータで紹介するシリーズです。今回は「仕事を楽しくすること」を取り上げました。

調査名称	ビジネスパーソン1000人調査
調査期間	2015年6月22日（月）～29日（月） 8日間
調査対象	（株）日本能率協会総合研究所「JMAR リサーチモニター」のうち全国の20歳～69歳までの正規・非正規雇用の就業者（企業や団体で働く正社員、役員、経営者、契約・嘱託社員、派遣社員。ただしパート・アルバイト、医師・弁護士などの専門職業、自由業を除く）
調査方法	インターネット調査
回答数	1,000人（内訳：男性556人、女性444人）

※回答は%表記とし、小数点第2位を四捨五入した。（自由回答を除く）

トピックス

- 1. 仕事を楽しんでいる人は全体の40.8%。仕事を楽しんでいる人の6割超が高い成果をあげていると自己評価**

仕事を楽しんでいる人は全体の40.8%。仕事を楽しくすることは個人・チームとしての高いパフォーマンスにつながることから、仕事を楽しめる人こそ企業の成長を支えるコア人材であることがうかがえる（P3～5）。
- 2. 仕事を楽しむためには「仕事の手ごたえ」が重要、「心身の健康」「仕事と生活の両立」は前提**

「心身の健康」（62.7%）がトップ、次いで「仕事のやりがい」（62.3%）、「仕事と生活の両立」（56.1%）、「能力発揮」（54.4%）。（p6～7）
- 3. 難しい仕事へのチャレンジは仕事を楽しむために欠かせない**

簡単な仕事より難しい仕事に取り組んでいる人の方が仕事を楽しめている。難しい仕事へのチャレンジは仕事を楽しくすることにつながるが、仕事量とのバランスには配慮が必要。（p8～9）
- 4. 仕事を楽しめる人のマインドは「周囲への感謝」と「ポジティブシンキング」**

仕事を楽しんでいる人は、周りに感謝し（72.8%）、失敗にも意味があると捉え（70.8%）、あきらめずに何ができるかを考える（69.6%）ことができる人。（p10～11）

今回のアンケートでは、「仕事を楽しむ」ことを一義的に定義せず、回答者のイメージに委ねて回答を得ています。

【本件に関するお問い合わせ】日本能率協会グループ 広報委員会（担当：斎藤 TEL：03-3434-8620）

〒105-8522 東京都港区芝公園 3-1-22 一般社団法人日本能率協会内 Email：jmapr@jma.or.jp

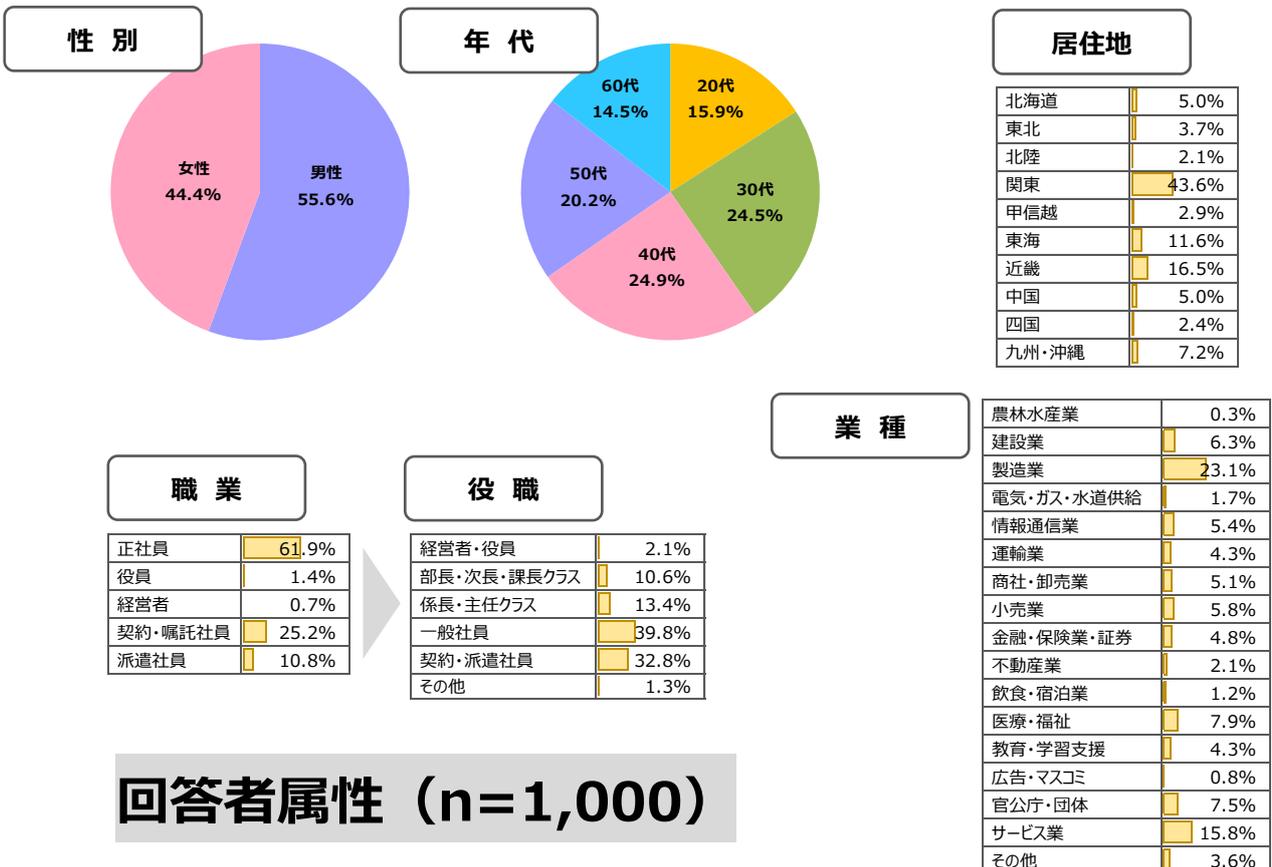
総括

企業の成長の源泉は生き生きと活動する社員であり、社員が楽しく仕事に取り組める職場づくりは多くの企業に共通する課題です。しかし現実には、社員の約6割が仕事に関して強い不安、悩み、ストレスを感じているとの報告があり（厚生労働省：平成24年度労働者健康状況調査）、社員が楽しく仕事に取り組む環境の実現は簡単ではないことがうかがえます。そこで今回は、どのくらいの方が仕事を楽しているか実態を把握するとともに、仕事を楽しむために何が必要か、そのヒントを探ることを主な目的として調査を実施しました。

まず全体傾向として、仕事を楽している人は40.8%でした。また、彼らの周囲のチームメンバーも、同様に仕事を楽している傾向が明らかとなりました。仕事を楽している人は、仕事で高い成果をあげていると自己評価できており、さらに仕事を楽しているチームは、チーム全体として高い成果をあげている傾向が明らかになりました。この結果から、仕事を楽しむという行為は自身のパフォーマンスを高めると共に、周囲に伝播し、チーム自体のパフォーマンスを高める効果を持っている可能性がうかがえました。仕事を楽しめる人材は、個人に留まらずチームのパフォーマンスにも良い影響を与えることができ、企業の成長にとってのコア人材となり得ることがうかがえました。

続いて、「仕事を楽しむために必要なこと」の結果をみると、その上位には「心身の健康」「仕事と生活の両立」「仕事のやりがい」「仕事内容と自身の資質・スキルの相性が良い」「自分の能力を発揮できる」といった項目が挙げられました。仕事を楽しめる職場を作るには、メンバー個人に負荷がかかりすぎないようにモニタリングしながら、“誰にどんな仕事を任せるべきか”を見極めていくことが第一歩になりそうです。

さらに、仕事を楽している人には特徴的な考え方や仕事観があるか検討したところ、「仕事で関わった多くの人に感謝している」、「どんな失敗にも意味があり、無駄なことはないと考える」、「あきらめる前に、自分で何が出来るかをまず考える」といった考え方・仕事観を強く持っていることがわかりました。これらの考え方を、仕事をうまく楽しむことができない社員や入社間もない若手社員にコーチングしていくことは、チームマネジメントの観点から意味があると考えられます。



“仕事を楽しんでいる”か？

1. 仕事を楽しんでいる人は全体の40.8%。若い世代やシニア世代と比較して、40～50代は仕事を楽しくしていない傾向。

日頃、どの程度仕事を楽しんでいるかを質問したところ、「楽しんでいる」（とても楽しんでいる／楽しんでいる／やや楽しんでいる を合計した「楽しんでいる計」と回答した人が40.8%で、5人中2人が「仕事を楽しんでいる」と回答しました。

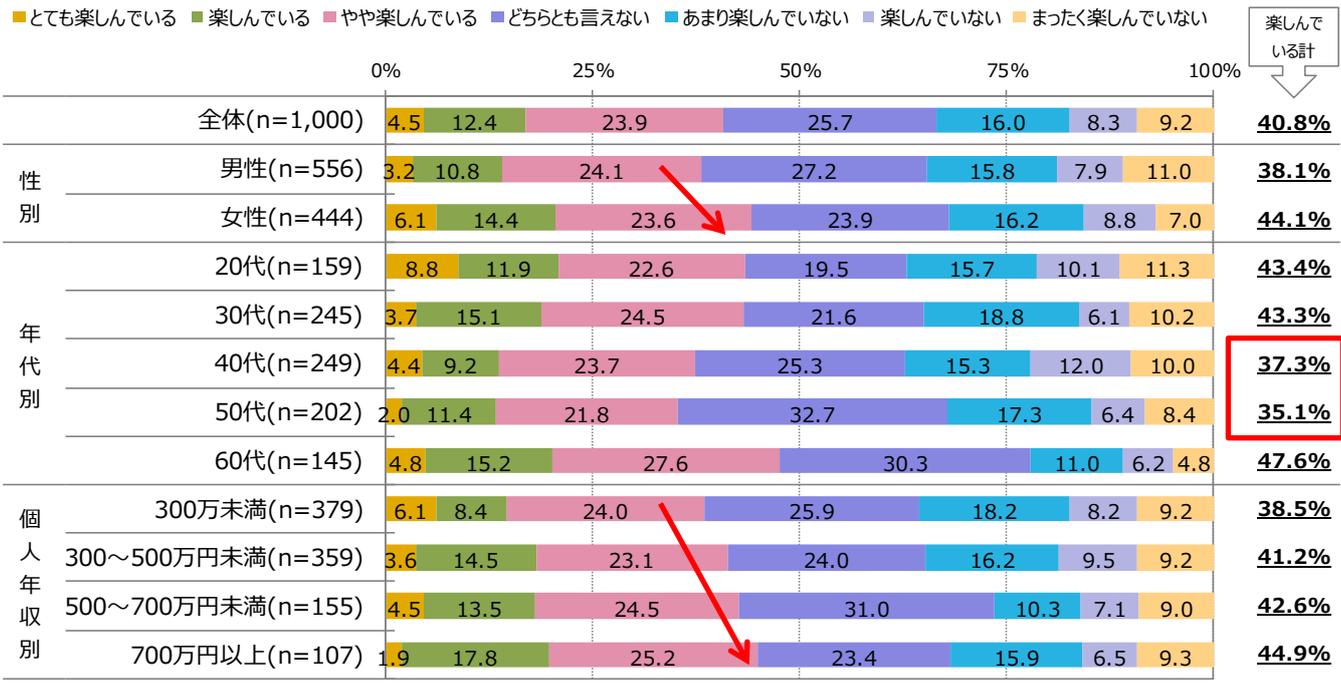
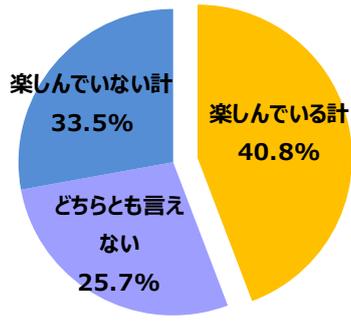
男女別では、男性より女性の方が「仕事を楽しんでいる」傾向が見られました。年代別では、ビジネスパーソンとしては比較的若い年代と60代で「仕事を楽しんでいる」人が多い結果となりました。一方、年代的に一定の裁量と重い責任を持つことが多いと思われる40代～50代は、他の年代と比較すると「仕事を楽しんでいる」人の割合が低くなる結果となっています。

個人年収別では、年収が高くなるほど「仕事を楽しんでいる」人の割合が高くなり、300万円未満と700万円以上では6ポイント以上の差異が見られました。[p3_図1]

年代別の特徴については、ビジネスパーソンとして最盛期と捉えられることが多い40代～50代で、仕事を楽しんでいる人の割合が低くなる結果となりました。よりシビアな判断が求められることが多いこの年代では、「仕事を楽しむ」といった意識・余裕が薄くなってしまふのかもしれませんが。個人年収別では、年収が高くなるにつれ、仕事を楽しんでいる人は多くなっています。この結果は、「しっかりとした対価を得ることで、仕事を楽しめるようになる」と解釈できる一方で、「仕事を楽しめる人はパフォーマンスが高まるため、結果的に年収が高くなる」とも解釈でき、因果関係の読み解きは難しいところです。

図1：あなたは日頃、どの程度仕事を楽しんでいますか？

※楽しんでいる計 = 「とても楽しんでいる」
 ～「やや楽しんでいる」
 楽しんでいる計 = 「あまり楽しんでいる」
 ～「まったく楽しんでいる」



仕事を楽しむことと仕事の成果の関係

2. 仕事を楽しんでいる人は、仕事で高い成果をあげていると自己評価。チームメンバーにも、同様に仕事を楽しんでいる人が多く存在し、チーム全体として高い成果をあげている傾向

仕事を楽しむことと仕事の成果の関係を探るため、仕事の成果の自己評価を聞き、仕事の楽しみ度別で分析しました。

仕事を楽しんでいる人が「仕事で高い成果をあげている」（とても高い／高い／やや高い成果をあげている計）と回答した割合は 63.2%であり、仕事を楽しんでいるかの質問に「どちらとも言えない」と回答した人が「仕事で高い成果をあげている」と回答した割合は 36.2%、仕事を楽しんでいるかの質問に「楽しんでいない」と回答した人が「仕事で高い成果をあげている」と回答した割合 25.7%と比較すると、仕事を楽しんでいる人が「仕事で高い成果をあげている」と回答した割合が顕著に高い結果となりました。[p4_図 2]

また、仕事を楽しんでいる人のチームメンバーが、同様に仕事を楽しめているか確認しました。結果、回答者本人が仕事を楽しんでいると、そのチームメンバーも仕事を楽しめている割合が高くなる傾向が明らかとなりました。本人が仕事を楽しんでいる場合、チームメンバーが仕事を楽しんでいる割合は 67.4%、逆に本人が楽しんでいない場合は 8.4%でした。[p5_図 3]

さらに、チーム全体としての仕事の成果を、そのチームが仕事を楽しめているかどうかという視点で分析すると、仕事を楽しんでいるチームほど高い成果をあげている傾向が明らかとなりました。[p5_図 4]

仕事を楽しんでいる人は、仕事で高い成果をあげていると自己評価する傾向がわかりました。また、仕事を楽しんでいる人のチームメンバーは、同様に仕事を楽しんでおり、さらにチーム全体として高い成果をあげていると評価できる傾向が明らかになりました。この結果から、仕事を楽しむという行為は自身のパフォーマンスを高めると共に、周囲に伝播し、チーム自体のパフォーマンスを高める効果を持っている可能性がうかがえました。仕事を楽しめる人材は、個人に留まらずチームのパフォーマンスにも良い影響を与えることができ、企業の成長にとってのコア人材となり得ることがうかがえました。

図 2：仕事の楽しみ度別 自身の仕事の成果をどのように自己評価していますか？

※仕事の成果とは、会社から与えられた目標の達成度や、期待されている役割を担うことができたかどうかなどを指す

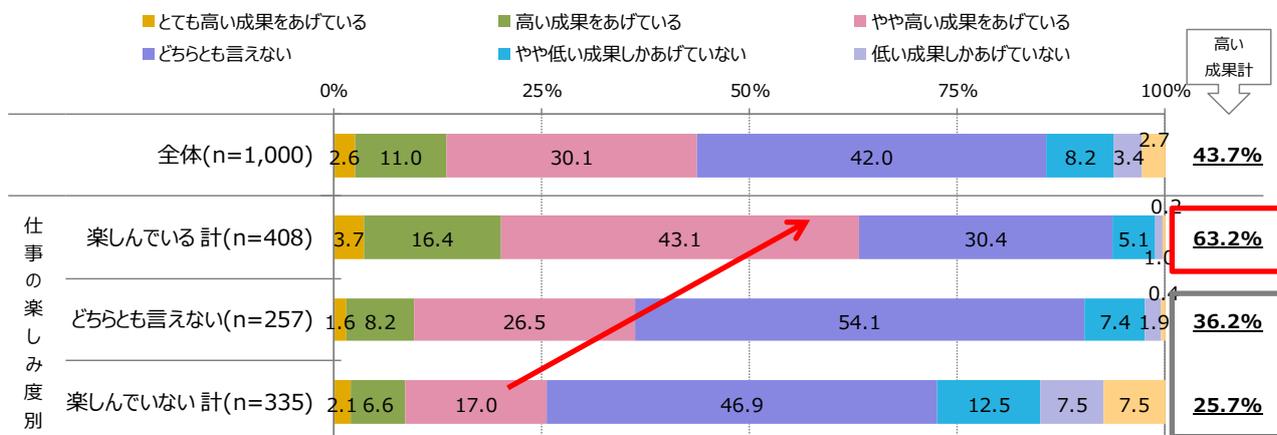


図 3：仕事の楽しみ度別 チームメンバーはどの程度仕事を楽していますか？

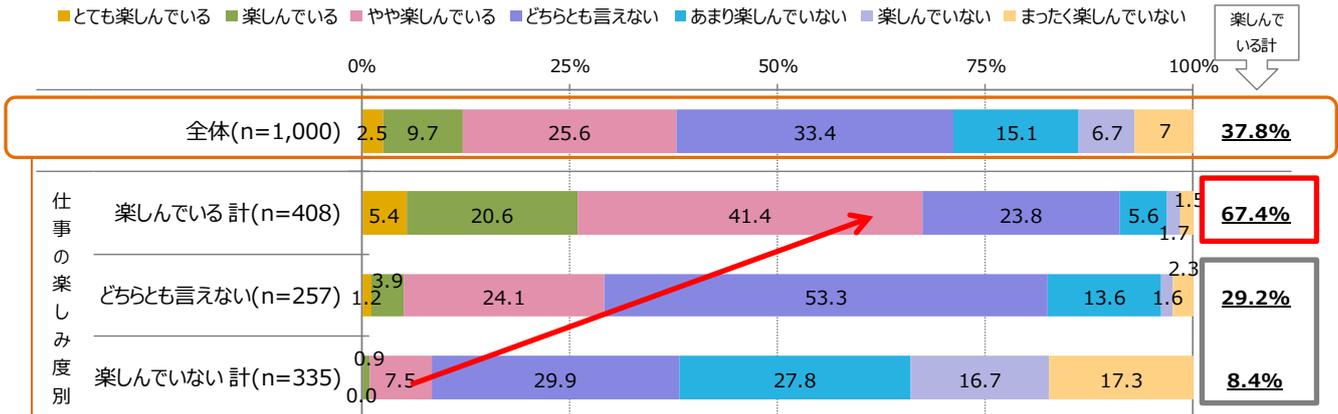
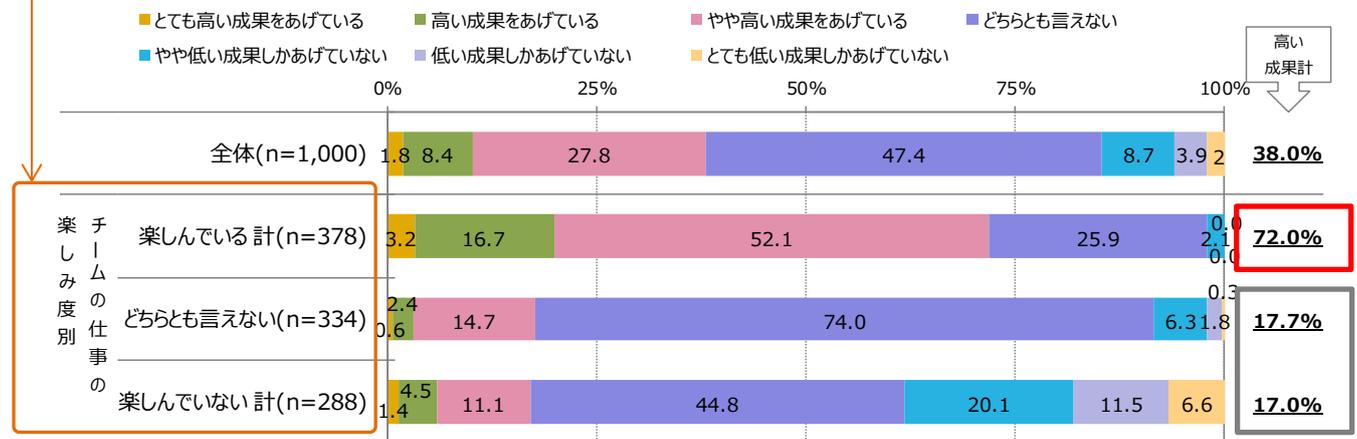


図 4：チームメンバーの仕事の楽しみ度別 チーム全体としての仕事の成果

※仕事の成果とは、会社から与えられた目標の達成度や、期待されている役割を担うことができたかなどを指す



“仕事を楽しむ”ために必要なことは？

3. 仕事を楽しむためには「仕事の手ごたえ」が重要、「心身の健康」「仕事と生活の両立」は前提

仕事を楽しむために必要と思われる 22 項目（下記参照）について、どの程度必要と思うかを聞いたところ、「とても必要」と回答された項目の TOP3 は、1 位「心身ともに健康である」（58.3%）、2 位「仕事と生活の両立」（51.1%）、3 位「仕事のやりがい」（49.4%）でした。

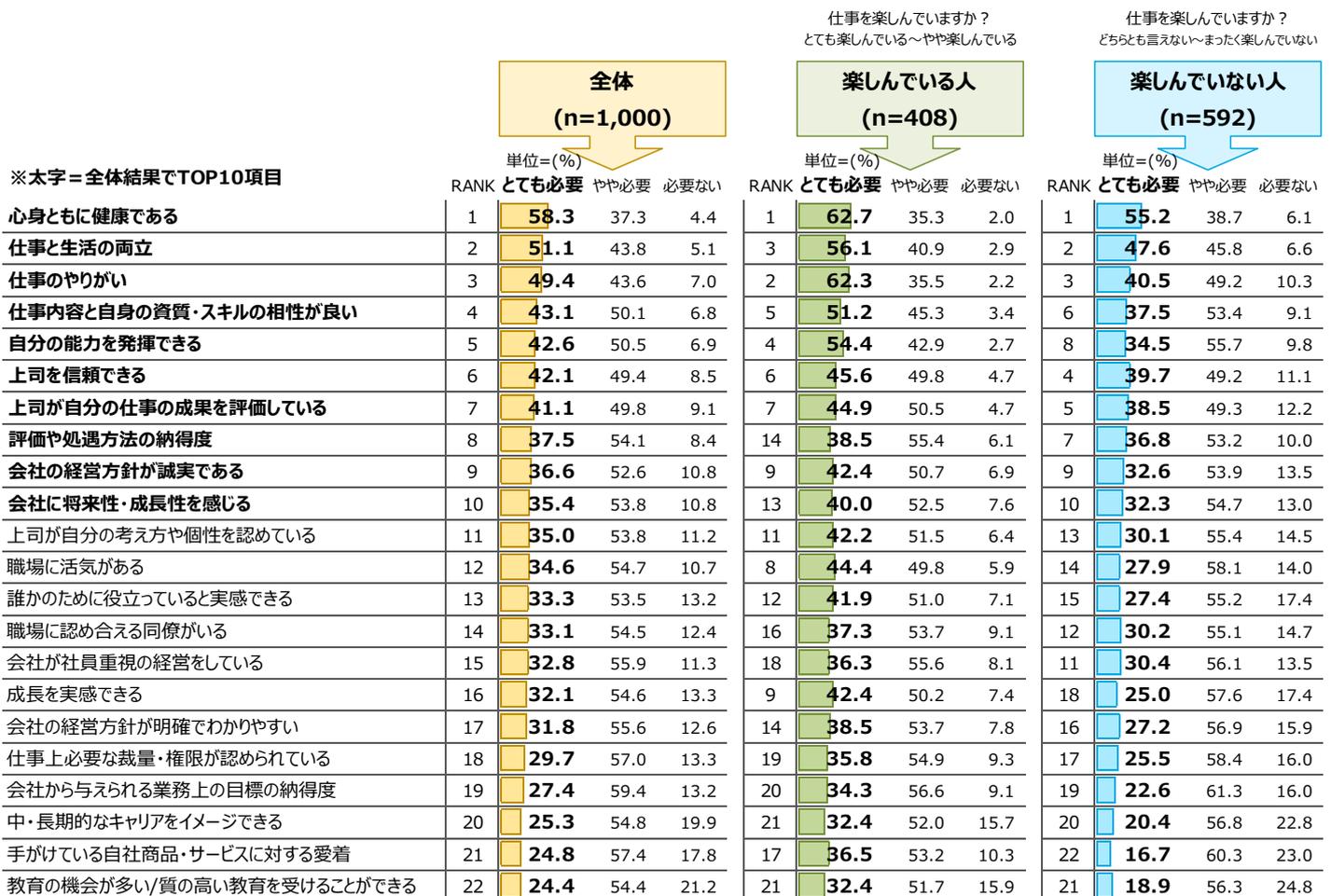
仕事を楽しんでいる人（n=408）では、1 位「心身ともに健康である」（62.7%）、2 位「仕事のやりがい」（62.3%）、3 位「仕事と生活の両立」（56.1%）となり、TOP3 は全体結果と同一となりましたが、「仕事のやりがい」が 2 位となり、「とても必要」の回答割合も高くなっています。その他、4 位「自分の能力を発揮できる」、5 位「仕事内容と自身の資質・スキルの相性が良い」と続きます。

仕事を楽しんでいない人（「どちらとも言えない」～「まったく楽しんでいない」の合計、n=592）でも、TOP3 項目は全体傾向と同一となりました。[p6_図 5]

仕事を楽しむため必要なこととして、「心身の健康」、「生活との両立」、「仕事のやりがい」の 3 項目が多く選ばれました。仕事を楽しんでいる人に限定しても同様の 3 項目が多く挙げられますが、「仕事のやりがい」を必要だと考える人が一層多くなる傾向となっています。その他、「仕事の内容と自身の資質・スキルの相性の良さ」や「能力を発揮できる」といった回答も多くなっており、総じて「自身の能力を存分に発揮できる環境」が必要だと感じている様子がうかがえます。

一方で、楽しんでいない人では「上司が自分の仕事の成果を評価している」（楽しんでいる人 7 位/楽しんでいない人 5 位）や「評価や処遇方法の納得度」（同 14 位/7 位）が楽しんでいる人比べると上位になっており、遂行した仕事に対する“しっかりとした評価”がなされないと、仕事を楽しむことが出来ない様子がうかがえる結果となりました。

図 5：それぞれの項目は、あなたが仕事を楽しむためにどの程度必要ですか？



続いて、仕事を楽しむために工夫していることや心がけている行動・考え方を自由回答形式で聞き、回答を内容別に分類しました。TOP3は、1位「ポジティブに考えるようにする」(回答数 58)、2位「コミュニケーションをとる(挨拶や相談・おしゃべりなど)」(回答数 41)、3位「目標を立てる・達成感を味わう」「スキルアップに努める・向上心をもつ」(各回答数 30)となりました。その他、5位「誠実に仕事に取り組む・役割をしっかりと果たす」「人間関係を良好にする」(各回答数 29)となり、ポジティブ思考・コミュニケーション・目標設定・向上心・誠実・良好な人間関係などが、仕事を楽しむためのポイントとして捉えられている様子が見えます。[p7_図 6]

図 6：仕事を楽しむために工夫していること・心がけている行動・考え方

RANK	回答数	仕事を楽しむために工夫していること 心がけている行動・考え方(n=1,000)
1位	58	ポジティブに考えるようにする
2位	41	コミュニケーションをとる(挨拶や相談・おしゃべりなど)
3位	30	目標を立てる・達成感を味わう
3位	30	スキルアップに努める・向上心をもつ
5位	29	誠実に仕事に取り組む・役割をしっかりと果たす
5位	29	人間関係を良好にする
7位	18	顧客や人に喜ばれる仕事をする
8位	16	常に笑顔でいる
9位	15	感謝をする
10位	13	効率の良い仕事をする
10位	13	自分の考えを持つ・自分が納得できるようにする
12位	11	頑張りすぎない
12位	11	協調性を大事にする
12位	11	プライベートを充実させる
15位	10	仕事を楽しむ(具体的内容なし)
15位	10	ミスをしないよう気を付ける
15位	10	仕事にメリハリをつける
15位	10	気分転換をする(音楽など)
19位	9	仕事と割り切る
-	108	その他
-	577	特になし

※自由記入による回答を、回答の内容別に分類し、回答数をカウント

仕事を楽しむことと、仕事の大変さの関係

4. 仕事が大変だからといって、仕事を楽しまないわけではない。むしろ、難しい仕事へのチャレンジは仕事を楽しむために欠かせない。

仕事の大変さは、仕事を楽しむことにどのような影響を与えるのでしょうか。このことを確認するため、まず、仕事の大変さを難易度と業務量の2つの視点で聞きました。さらにその結果に基づいて、仕事の大変さを「仕事内容：難しい×業務量：多い」「難しい×少ない」「簡単×多い」「簡単×少ない」の4つに分類し、「難しい×多い」を「大変な仕事をしている」と位置づけました。最も多くなったのは「難しい×多い」(49.4%)で、約半数の人が自身の仕事内容は難しく、業務量も多いと回答しました。

男女別では、女性より男性で「難しい×多い」が多くなりました。(男性 54.0%、女性 43.7%)。年代別では、「難しい×多い」の割合に関して大きな差異は見られませんでした。

個人年収別では、年収が高くなるほど「難しい×多い」の割合が高くなり、300万円未満と700万円以上では30ポイント近い開きが見られました。高い難易度の仕事内容を多くこなすことは、評価として収入に直結しやすいことは容易に想像され、その点を裏付ける結果となっているといえます。[p8_図7-1 / p8_図7-2 / p8_図8 / p9_図9]

図 7-1 : 仕事をどの程度難しいと感じていますか？

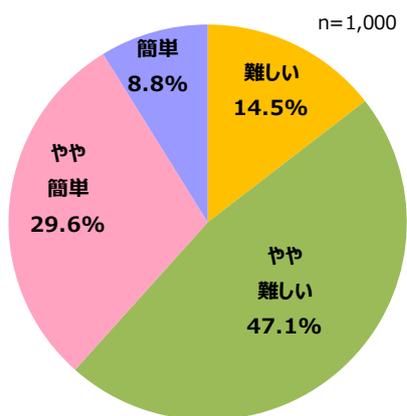


図 7-2 : 仕事の業務量をどの程度多いと感じていますか？

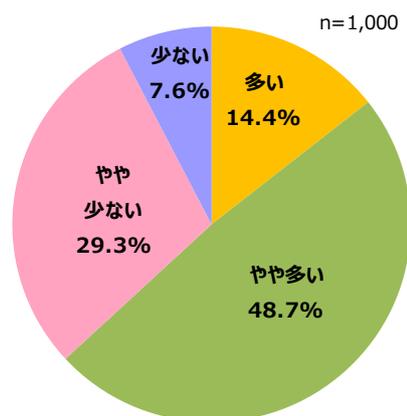
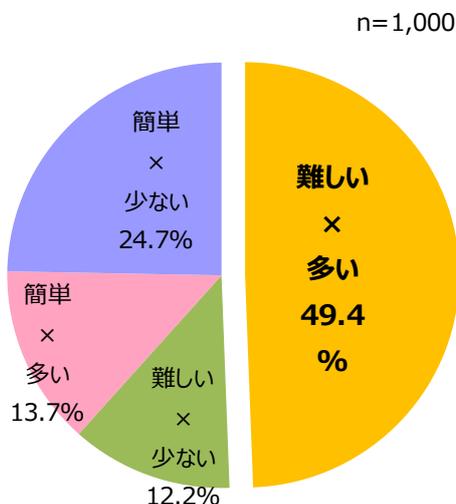
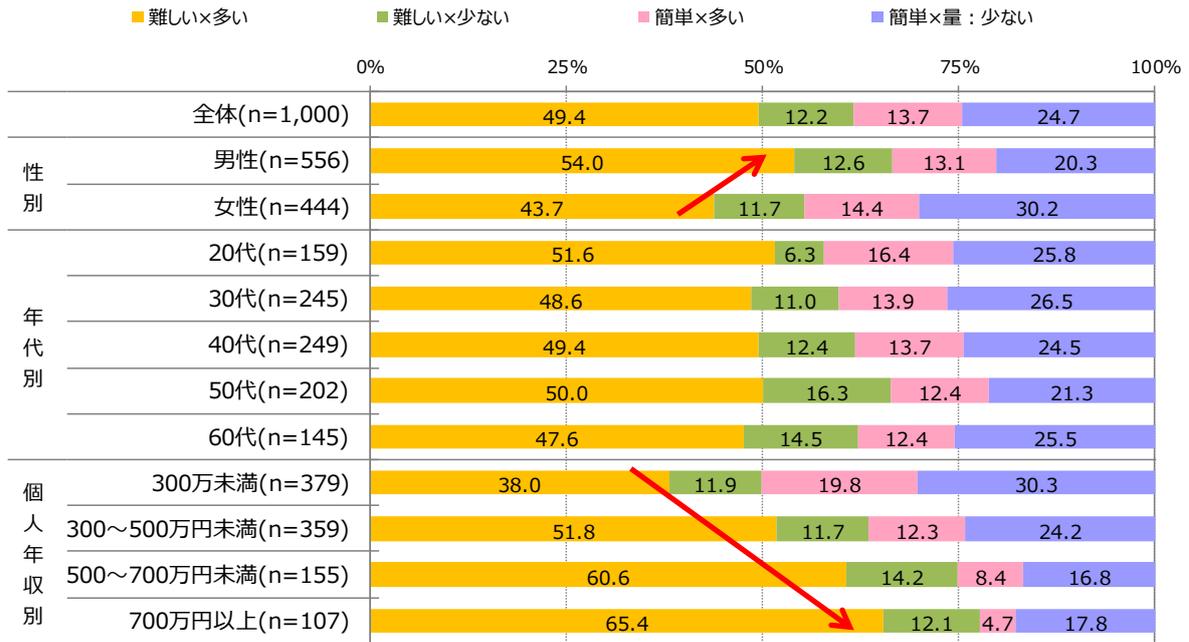


図 8 : 仕事の難易度×業務量



- ※難しい = 難しい + やや難しい
- ※簡単 = 簡単 + やや簡単
- ※多い = 多い + やや多い
- ※少ない = 少ない + やや少ない

図 9：性別・年代別・個人年収別 仕事の大変さ別



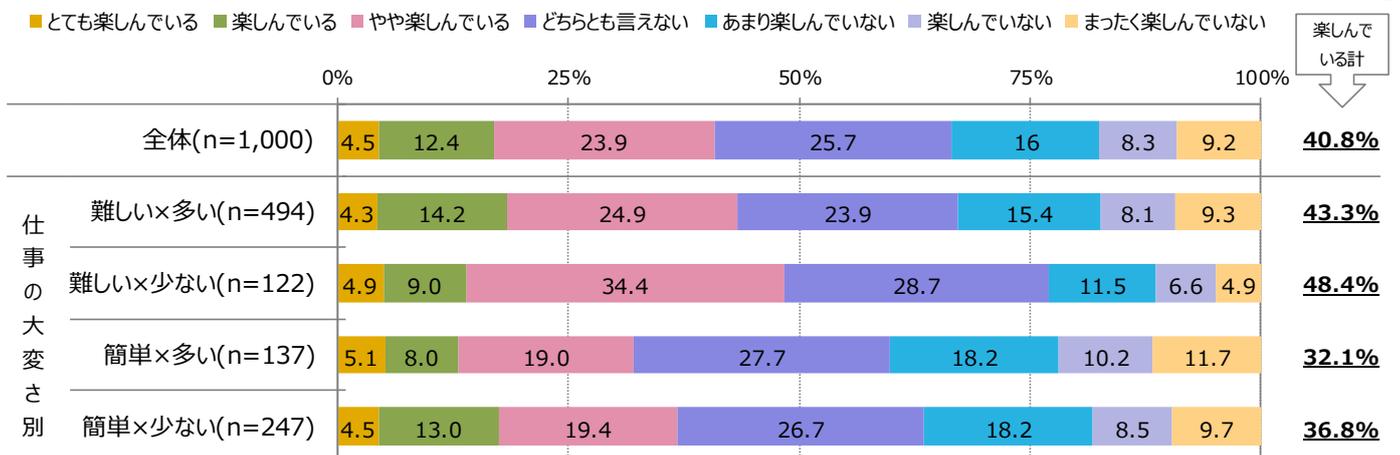
続いて 4 つに分類した仕事の大変さ別で、仕事を楽しんでいる割合を見ました。「大変な仕事をしている」と位置づけた「難しい×多い」の楽しんでいる計は 43.3%で、全体結果の 40.8%と概ね同等の結果となり、“仕事が大変だと、仕事は楽しめない”という図式が存在しているわけではないようです。むしろ「難しい」と感じている人の方が仕事を楽しんでいる傾向がうかがえ、簡単な仕事を多くこなしている人が最も仕事を楽しめていないことがわかりました。[p9_図 10]

簡単な仕事よりも難しい仕事に取り組んでいる人のほうが仕事を楽しめているという結果でした。難しい仕事のほうが能力発揮や仕事の手ごたえを感じる場面が多いのかもしれませんが。一方、簡単な仕事を多くこなすことは、やりがいが得られない中で労働負荷がかかり、楽しめる状況から遠のいてしまうことが想像されます。マネジメントの視点に立つと、業務負荷に配慮しつつ、メンバーの能力を見極めながら適度に難しい仕事に取り組んでもらうようなタスク設定が、本人やチームのパフォーマンスに重要となることがうかがえました。

図 10：仕事の大変さ別 仕事の楽しみ度

※楽しんでいる計 = 「とても楽しんでいる

~やや楽しんでいる」



“仕事を楽しんでいる人”の特徴は？

5. 仕事を楽しんでいる人は、「周囲への感謝とポジティブな考え方を心がけており、周囲に支えてくれる人や仲間が存在している」

仕事に関する行動・意識・考え方 13 項目について、どの程度自身にあてはまるかを聞いたところ、「あてはまる計（あてはまる＋ややあてはまる）」が高かった項目 TOP3 は、1 位「仕事をしていたらミスはつきものだと割り切っている」（55.6%）、2 位「あきらめる前に、自分で何が出来るかをまず考える」（54.2%）、3 位「どんな失敗にも意味があり、無駄なことはないと思う」（54.1%）でした。

仕事を楽しんでいる人（n=408）では、1 位「仕事で関わった多くの人に感謝している」（72.8%）、2 位「どんな失敗にも意味があり、無駄なことはないと思う」（70.8%）、3 位「あきらめる前に、自分で何が出来るかをまず考える」（69.6%）となりました。その他、4 位に「仕事をしていたらミスはつきものだと割り切っている」、6 位に「困難な目標も努力し続けられようまう行く信じている」が挙げられ、困難への耐性や自己能力の肯定といえる項目であてはまる計の回答割合が高くなりました。

一方、仕事を楽しんでいない人（n=592）は、TOP3 項目は全体結果と同一の項目となりましたが、TOP3 項目の全てであてはまる計の回答割合が 5 割に満たない結果となり、総じて楽しんでいる人より、低い傾向となりました。[p10_図 11]

仕事を楽しんでいる人と楽しんでいない人で、あてはまる計の差が最も大きくなった項目は「仕事で関わった多くの人に感謝している」でした。その他、あてはまる計の差が 30 ポイント以上となったのは「仕事を通じて、自分を大切に思ってくれる人がいる」「困難な目標も努力し続けられようまう行く信じている」「小さな目標を設定し達成を積み重ねるようにしている」「困ったことがあったら相談できる、頼れる仲間がいる」でした。仕事を楽しんでいる人は、“独りよがりになることなく、周囲への感謝とポジティブな考え方を心がけており、周囲に支えてくれる人や仲間が存在している”点が特徴といえることがわかりました。

図 11：仕事に関する行動・意識・考え方

※あてはまる計＝「あてはまる＋ややあてはまる」

各項目で自身にどの程度をあてはまるかを、
あてはまる／ややあてはまる／どちらとも言えない
あまりあてはまらない／まったくあてはまらない の選択肢で聴取

行動・意識・考え方
あてはまる計結果比較

仕事を楽しんでいますか？
とても楽しんでいる～やや楽しんでいる

仕事を楽しんでいませんか？
どちらとも言えない～まったく楽しんでいない



● =楽しんでいる人と楽しんでいない人で、ギャップがある項目(30ポイント以上)

参考：仕事に関する行動・意識・考え方 詳細結果

全体(n=1,000)	RANK	あてはまる計 単位=(%)	あてはまる ややあてはまる				
			あてはまる	やや あてはまる	どちらとも いえない	あまり あて はまらない	まったく あて はまらない
仕事をしていればミスはつきものだと割り切っている	1	55.6	13.6	42.0	34.0	8.3	2.1
あきらめる前に、自分で何が出来るかをまず考える	2	54.2	12.6	41.6	37.0	6.8	2.0
どんな失敗にも意味があり、無駄なことはないと考える	3	54.1	13.7	40.4	35.4	8.4	2.1
仕事で関わった多くの人に感謝している	4	51.0	14.3	36.7	37.7	7.1	4.2
少しくらいの苦悩や失望でくじけてしまうことはない	5	50.7	12.1	38.6	32.1	14.2	3.0
多少のリスクがあってもやらないよりやることを選ぶ	6	47.4	11.9	35.5	41.5	8.9	2.2
困難な目標も努力し続ければうまく行くと信じている	7	45.7	8.4	37.3	40.5	10.0	3.8
小さな目標を設定し達成を積み重ねるようにしている	8	42.5	8.6	33.9	45.6	8.0	3.9
困ったことがあったら相談できる、頼れる仲間がいる	9	40.0	9.8	30.2	38.7	13.5	7.8
元気がないとき、気付いて励ましてくれる人がいる	10	38.8	9.1	29.7	38.7	12.9	9.6
仕事において人に負けない誇れるものがある	11	38.6	9.6	29.0	39.5	15.2	6.7
仕事を通じて、自分を大切に思ってくれる人がいる	12	36.5	8.3	28.2	43.7	12.6	7.2
これからのビジネス人生は期待に満ちている	13	20.7	4.9	15.8	44.6	19.8	14.9

仕事を楽んでいますか？
とても楽しんでいる～やや楽しんでいる

仕事を楽んでいる人(n=408)	RANK	あてはまる計 単位=(%)	あてはまる ややあてはまる				
			あてはまる	やや あてはまる	どちらとも いえない	あまり あて はまらない	まったく あて はまらない
仕事で関わった多くの人に感謝している	1	72.8	23.5	49.3	22.8	3.4	1.0
どんな失敗にも意味があり、無駄なことはないと考える	2	70.8	21.1	49.8	23.5	5.4	0.2
あきらめる前に、自分で何が出来るかをまず考える	3	69.6	20.8	48.8	25.5	4.4	0.5
仕事をしていればミスはつきものだと割り切っている	4	67.2	19.4	47.8	25.0	6.9	1.0
少しくらいの苦悩や失望でくじけてしまうことはない	5	66.9	18.9	48.0	25.2	6.9	1.0
困難な目標も努力し続ければうまく行くと信じている	6	64.5	15.7	48.8	29.7	4.7	1.2
多少のリスクがあってもやらないよりやることを選ぶ	7	64.0	19.4	44.6	31.9	3.9	0.2
小さな目標を設定し達成を積み重ねるようにしている	8	61.3	15.2	46.1	33.3	4.4	1.0
困ったことがあったら相談できる、頼れる仲間がいる	9	58.1	15.9	42.2	31.6	7.8	2.5
仕事を通じて、自分を大切に思ってくれる人がいる	10	56.4	15.0	41.4	35.8	5.6	2.2
元気がないとき、気付いて励ましてくれる人がいる	11	55.9	14.7	41.2	33.3	7.8	2.9
仕事において人に負けない誇れるものがある	12	54.7	14.7	40.0	33.8	9.1	2.5
これからのビジネス人生は期待に満ちている	13	34.6	8.6	26.0	45.8	14.2	5.4

仕事を楽んでいますか？
どちらとも言えない～まったく楽しんでいる

仕事を楽んでいない人(n=592)	RANK	あてはまる計 単位=(%)	あてはまる ややあてはまる				
			あてはまる	やや あてはまる	どちらとも いえない	あまり あて はまらない	まったく あて はまらない
仕事をしていればミスはつきものだと割り切っている	1	47.6	9.6	38.0	40.2	9.3	2.9
あきらめる前に、自分で何が出来るかをまず考える	2	43.6	6.9	36.7	44.9	8.4	3.0
どんな失敗にも意味があり、無駄なことはないと考える	3	42.6	8.6	34.0	43.6	10.5	3.4
少しくらいの苦悩や失望でくじけてしまうことはない	4	39.5	7.4	32.1	36.8	19.3	4.4
仕事で関わった多くの人に感謝している	5	36.0	7.9	28.0	48.0	9.6	6.4
多少のリスクがあってもやらないよりやることを選ぶ	5	36.0	6.8	29.2	48.1	12.3	3.5
困難な目標も努力し続ければうまく行くと信じている	7	32.8	3.4	29.4	48.0	13.7	5.6
小さな目標を設定し達成を積み重ねるようにしている	8	29.6	4.1	25.5	54.1	10.5	5.9
困ったことがあったら相談できる、頼れる仲間がいる	9	27.5	5.6	22.0	43.6	17.4	11.5
仕事において人に負けない誇れるものがある	9	27.5	6.1	21.5	43.4	19.4	9.6
元気がないとき、気付いて励ましてくれる人がいる	11	27.0	5.2	21.8	42.4	16.4	14.2
仕事を通じて、自分を大切に思ってくれる人がいる	12	22.8	3.7	19.1	49.2	17.4	10.6
これからのビジネス人生は期待に満ちている	13	11.1	2.4	8.8	43.8	23.6	21.5